

21 「衛生」のルーツを探る —養生、健全学、医制の文献から—

【全1回】／開催方法：対面のみ

おか ぎき ひて き
岡崎 秀紀

学芸員
松江バルトン会幹事



受講料 一般料金：¥2,600 早割価格：¥1,600 (納入期限:12月1日)

【日程・時間】【全1回】

12月5日 (土) 12:30~14:00

■受講に必要なもの

【テキスト】 レジューメ配布

2025年度講座では、衛生思想の普及と実現に貢献した4人の先人、A.ローレツ、田野俊貞、後藤新平、W.K.バルトンを取り上げました。衛生の言葉は、岩倉使節団(1871~73)に参加した、初代衛生局長の長与専齋が欧州で見出した、「Hygiene」が源であるとして知られています。しかし、長与以前に、この方面での欧州の進んだ考えや実践を知って、翻訳書を出版する、医制で衛生の言葉を用いる、などの先人がいました。

近代国家へのスタートは、衛生から始まったとも言われます。講座では、日本古来の養生の考え方も関連する、「衛生」の言葉のルーツを探ることで、明治の衛生思想や医制の発展の歴史を学習します。それは、国民の健康増進、人々の幸福を確保するという近代化への過程でした。

概要

1. 養生とは —仏教と共通点も—

養生とは／養生の歴史／養生と仏教／貝原益軒『養生訓』(1712)

2. 健全学とは —個人から社会の衛生への萌芽—

1) Robert James Mann (1817-1886) 著 『The Book of Health』(1854)。英国医師。

2) J. L. de Bruijn Kops著 『Eenvoudige Gezondheidsleer』(1856)。Mann著を蘭語に翻訳。

※「Eenvoudige」(簡単)、「Gezondheids」(無病健全)、「leer」(教える)の意。

3) Kops著・杉田玄端訳『健全学』(1863、文久3) Kops著を日本語に翻訳。

※参考：「健全学提要」『衛生通報第14・15号』島根県衛生課(1885)

3. 医制と衛生 —公衆衛生のはじまり—

【医制】 1874年に制定された衛生制度(医師・医学校・薬舗など)を定めた規定

【衛生】 健康の保全・増進をはかり、疾病の予防・治療につとめること。(広辞苑)

独語Hygiene(ヒギーネ) = 生を衛る(せいをまもる)。『荘子』より採った。

1) 松本良順(1832-1907)

長崎でポンペに学ぶ。初代陸軍軍医総監。『養生法(上下)』(1864)

2) 相良知安(1836-1906)

蘭医。文部省医務局長・第一大学区医学校校長。医制を立案。

3) 長与専齋(1839-1902)

岩倉使節団欧州視察(医療制度など)。初代衛生局長／Hygiene(衛生)。

まとめ

○松江と関わる人物(松本良順、長与専齋) ○文献探索

【参考書】

1) Robert James Mann著 『The Book of Health』(1854)

2) J. L. de Bruijn Kops著 『Eenvoudige Gezondheidsleer』(1856)

3) Kops著・杉田玄端訳『健全学』(1863・文久3) ※島根大学附属図書館蔵(1867年版)

4) 吉村昭『日本医家伝』講談社(1917) ※中公文庫版(2023)

5) 『松本順自伝・長与専齋自伝』平凡社東洋文庫(1980)